

The 予算・質疑

3月9日に開催された予算審査特別委員会（川染洋委員長）で、冒頭昨年（2011）年の3.11東日本大震災で犠牲になった方々に黙祷を捧げた後、平成24年度の予算を審査、すべて原案どおり全会一致で認定しました。

教育費



給食での地場産品利用

Q 共同調理場での地場産品の利用状況は。

A 全体で約40%。ワーキングセンターで生産される加工品の活用も今後検討したい。

学校のホームページ

Q 町内の各学校のホームページに統一感が必要、更なる充実を。

A 統一感のあるものに整備を進める。

土木費

防雪林の整備

Q 景観の観点から道路脇に防雪柵ではなく、防雪林を整備する考えは。

A 防雪林の木が育つのを待ってられない状況がある。また、農地に隣接している場合、林では困る農家もでてくる。



公営住宅の修繕

Q 公営住宅の修繕の基準は。

A 次の入居者が清潔感をもって入居できる状況の確保。

商工費

かんの温泉

Q 閉鎖されている然別峡の菅野温泉の今後の見通しは。

A 民間の協議になるので、正式に取得等の話は町にはきていない。環境省等への許可の関係もあり、町としては成り行きを見ている状況。

観光インフォメーション

Q 町の顔にもなる観光インフォメーションの活動は？

A 道の駅しかおいにおいて観光インフォメーションを町が委託している。インフォメーションのあり方を検討している。鹿追のスタイルにあったものを模索。

農林費

町営牧場の整備

Q 町営牧場の面積を増やすための用地確保の状況と今後の整備の予定は。

A 牧場周辺の土地の取得について所有者との話し合いがされている状況。森林を伐採して牧場を広げる計画。

パドック（牛の放牧場）、バンカーサイロ（牛の餌貯蔵施設）、牧場の整備を進めます。



環境保全センターの運営

Q 環境保全センター（バイオガスプラント）の将来的な町の負担をどう考えるか。

A 経済的に将来自立していく方向にもっていききたい。処理後にできる肥料効果が期待できる消化液の価値の見直しや、売電価格の引き上げに期待する。

新規作物の開発

Q 新規作物の開発への取り組みについては。

A バイオガスプラントの熱を利用した2棟のビニールハウスでサツマイモの育苗と生薬（しょうやく）の研究をする。

民生費



将来のゴミの処分

Q 上幌内にあるゴミの最終処分場も恒久的なものではない、次のゴミ処理への対応は。

A 現在最終処分場は47%弱の埋立て率。平成30年度まで使用する予定。平成25年までに次の施設について計画をたてます。



ボランティア組織の育成

Q 障がい者や高齢者に対する支援ボランティアの組織育成が予算化されているがその方法は。

A 町内の地域、行政区、個人の提案をもとに組織の育成を進めていきたい。各団体との細かい調整も今後必要と考えている。

総務費



役場庁舎の耐震化

Q 災害の際、防災拠点となる役場庁舎の耐震診断の結果はどうだったのか。また、防災対策備品の整備状況はどうなのか。

A 耐震調査の結果、弱いところがあり国の事業を使い耐震工事を進める。防災備品についても新年度予算で対応する。



子ども宿泊体験事業

Q 予算化されている子ども宿泊体験は何を対象として、その目的は何か。

A 都市から農村漁村へ民泊も含めた交流、その基礎づくりが目的。被災地からの子どもの受け入れも検討している。

やぶさめ大会

Q うりまくらディンギングパークで実施していたやぶさめ大会の今年度開催は。

A 例年好評でしたが、馬の移動が困難という事で、今年は開催できないと主催団体からの報告がありました。

予算審査特別委員会を 傍聴してみよう



北瓜幕 藤田 富士雄さん

答弁する職員が意欲的に応答していると感じた。反面、質問者の議員に再質問や意見が少なくさびしい感じだ。すぐに結論の出ないものもはもともとと議論すべきだ。予算委は昨年（2011）年と同じ1日で終わった。予定の3日間はなんなのか。議会に対し町民の思うところは！



東瓜幕 佐藤 年樹さん

委員会の前に議場の全員で東日本大震災で犠牲になられた方に黙とうされたのが印象的でした。議員全員が活発に質問され、真剣に取り組んでおられると感じました。昔は、委員会室で予算委員会を行い、意見は少数、傍聴者もありませんでした。

